

テーマ：家計調査・商業販売統計（2011年10月）  
～天候の改善等により持ち直すが、先行きは期待薄～

発表日：2011年11月29日（火）

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 首席エコノミスト 新家 義貴  
TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		商業販売額						卸売業				小売業				コンビニ販売額	
		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店		スーパー		前年比	既存店前年比				
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	前年比	既存店前年比						
11	1月	3.3	4.6	4.6	5.0	0.1	4.0	1.5	▲0.7	▲1.1	▲0.4	7.1	4.5				
	2月	5.3	0.5	7.2	0.7	0.1	0.8	3.2	0.5	0.6	0.4	8.5	5.9				
	3月	▲1.3	▲10.2	1.2	▲10.7	▲8.3	▲7.6	▲4.5	▲7.5	▲15.0	▲3.0	9.1	7.2				
	4月	▲2.6	5.1	▲1.7	5.1	▲4.8	4.1	1.2	▲1.9	▲1.8	▲1.9	3.0	1.0				
	5月	1.3	▲0.1	2.3	▲1.0	▲1.3	2.4	0.8	▲2.5	▲2.6	▲2.4	7.3	5.1				
	6月	3.1	1.7	3.8	1.3	1.2	2.9	2.5	▲0.5	0.1	▲0.8	10.9	8.3				
	7月	2.3	▲0.3	3.0	0.0	0.6	▲0.3	1.8	0.8	▲0.4	1.5	11.4	8.9				
	8月	3.1	▲1.6	5.2	▲1.5	▲2.6	▲1.7	▲1.8	▲2.6	▲2.1	▲2.9	9.1	6.6				
	9月	0.3	▲2.4	0.8	▲2.8	▲1.1	▲1.4	▲2.4	▲3.6	▲2.8	▲4.0	▲1.8	▲4.1				
	10月	0.9	1.5	0.5	1.3	1.9	1.4	▲0.5	▲1.4	▲0.8	▲1.7	16.5	13.5				

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

(%)

		実質消費支出（二人以上世帯）				実質可処分所得		消費性向	
		合計		除く住居等(※)		(勤労者世帯)		(勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前期比
11	1月	▲0.3	0.9	▲0.5	▲1.5	▲2.7	▲0.2	74.1	0.0
	2月	0.5	▲0.3	0.2	1.1	2.1	4.8	71.5	▲2.6
	3月	▲8.2	▲2.8	▲7.2	▲2.6	▲3.0	▲5.9	72.6	1.1
	4月	▲2.0	1.0	▲2.0	0.3	▲1.8	2.9	72.9	0.3
	5月	▲1.2	▲0.3	▲1.1	0.9	▲2.9	▲2.8	74.7	1.8
	6月	▲3.5	0.8	▲2.8	0.5	▲5.9	0.9	73.6	▲1.1
	7月	▲2.1	0.7	▲1.0	1.4	1.1	3.9	71.9	▲1.7
	8月	▲4.1	▲0.1	▲4.0	▲2.3	▲1.9	▲2.8	73.8	1.9
	9月	▲1.9	0.9	▲1.6	2.1	▲1.4	1.7	74.3	0.5
	10月	▲0.4	0.3	▲1.7	▲0.1	▲3.8	4.2	71.8	▲2.5

(出所) 総務省「家計調査報告」

※「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている

## ○ 天候の改善などを背景に10月の個人消費は持ち直し

経済産業省から公表された10月の小売業販売額は前年比+1.9%となり、市場予想(+0.8%)を上回った。季節調整値でも前月比+1.4%と4ヶ月ぶりに増加に転じている。地上デジタル放送移行を前にしたテレビの駆け込み需要の反動が長引いていることから、機械器具小売業が前月比▲2.5%と4ヶ月連続で減少した一方、その他の業態は増加している。台風の悪影響が響いた9月とは逆に、10月は天候が良かったことが衣料品を中心として消費を押し上げた模様であり、百貨店等が含まれる各種商品小売業(同+1.3%)、織物・衣服・身の回り品小売業(同+3.2%)などが好調だった。また、高水準の受注残がある自動車販売小売業(同+0.7%)も、伸びこそ鈍化したものの3ヶ月で増加している。

また、総務省から公表された10月の家計調査実質消費支出(二人以上世帯)は前年比▲0.4%となり、こちらも市場予想(同▲1.5%)を上回った。前年比での減少幅が縮小したことに加え、前月比でも+

0.3%と小幅ながら増加している。また、消費の基調を見る上でより重要な「除く住居等<sup>1</sup>」でも、9月にご前月比+2.1%と増加した後にもかかわらず、10月は同▲0.1%の微減にとどまった。全体としてやや強めの結果と言えるだろう。内訳では、前月大きく伸びた反動から教育が落ち込んだ一方、小売業販売と同様に被服及び履物が大幅に増加している。

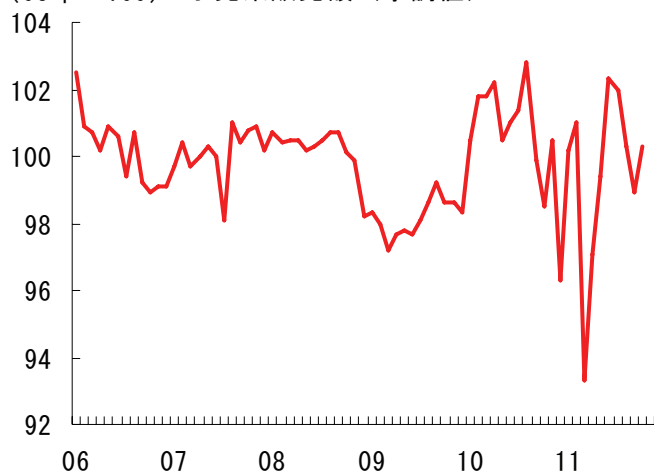
このように、10月の小売業販売額、家計調査とも、市場予想を上回る強めの結果だった。他の業界統計でも比較的良好な結果のものが多く、10月の個人消費は改善したと判断される。個人消費は6月まで早いペースで改善した後、7月以降は若干弱含んでいたが、10月は天候の改善等にも支えられていったん持ち直した形になる。

## ○ 個人消費は先行き低調に推移する可能性大

もともと、10月の小売業販売額の水準は7-9月期対比▲0.1%ポイントにとどまり、直近のピークだった6月と比べても2.0%下回っている。10月に増加したとは言っても、7月以降の落ち込みを取り戻すには至っていない。なお、家計調査については、10月の水準は7-9月期を0.9%ポイント上回っている（「除く住居等」では0.5%ポイント上回る）が、サンプル要因によって実態よりも強めに出ている可能性は否定できない。個人消費が改善に転じたとまでは言えないだろう。

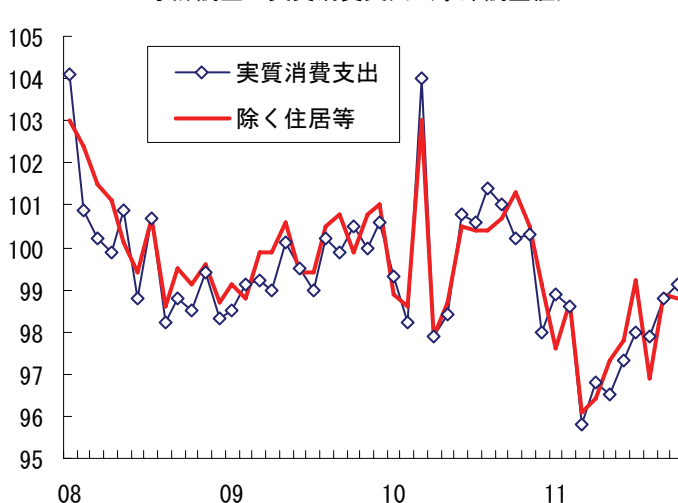
先行きについても大きな期待はできない。消費を取り巻く環境をみても、雇用・賃金の回復が極めて限定的なものにとどまることが予想されることに加え、景気の先行き不透明感の強まりから、消費者マインドも今後は改善ペースが鈍化する可能性が高い。また、これまで大規模な需要の先食いが生じていたテレビ販売は先行きも低調な推移が続くと見込まれるほか、好調が持続している自動車販売についても、今後は次第に伸びが鈍化していくとみられる。個人消費は、先行き低調に推移する可能性が高いと予想される。

(05年=100) 小売業販売額 (季調値)



(出所) 経済産業省「商業販売統計」

家計調査・実質消費支出 (季節調整値)



(出所) 総務省「家計調査」

<sup>1</sup> 「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。